

1 忍法なりすましその1 ちびっこ忍者のかくれ術



チョウやガの幼虫は、子育て中の小鳥のエサになります。小鳥から身をまもるために、かれらはおとな顔負けのかくれっぷりを見せてくれます。



ようろうばなし 虫のかぞえ方

人をかぞえるときは一人二人ですが、虫は1頭、2頭とかぞえます。「頭」がはっきりしている動物をかぞえるときは1頭、2頭といいます。牛や馬のような大きな動物をかぞえるときにも「頭」というので、虫に「頭」をつかうとヘンだとかんじる人もあるようです。正式には、虫は小さくても1頭、2頭とかぞえます。もちろん1匹、2匹とかぞえてもいいんです*。

* 学術的な論文などでは「頭」でかぞえる。ただ習慣として「匹」をつかうことが多いので、「匹」をつかってもまちがいはない。

クイズ
くわの木に、クワエダシャクというガの幼虫が6匹とまっているよ。ほんものの枝は、アからキのどれかな？

キ ちびっこ



木の枝や花になりきる

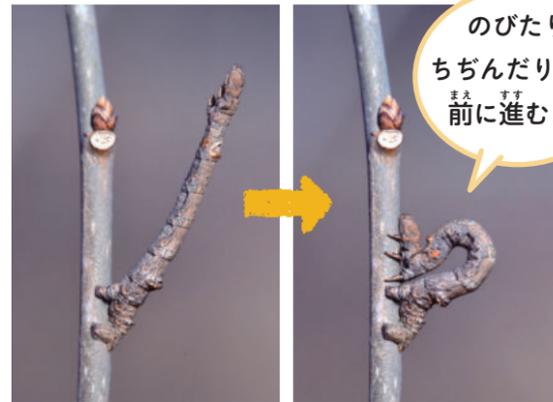
チョウやガの幼虫は、たまごを産みつけられた木の上で、葉っぱを食べて成長します。エサとして小鳥たちに食べられないようにするには、いかに木のなかで自立たないかがだいじです。

クワエダシヤクの幼虫

くわの木には秋の終わりごろから翌年の初夏にかけて、くわの枝そっくりなガの幼虫がいる。ごくふつうに見られる幼虫だけれど、1本の木にいるクワエダシヤクをすべて見つけるのは、かんたんなことではないよ。



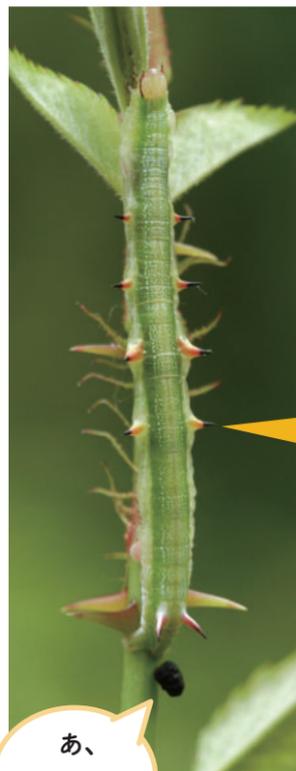
クワエダシヤクの幼虫なのに、アリも気づかない!



のびたりちぢんだりしてまえに進むよ。

キエダシヤクの幼虫

キエダシヤクの幼虫は、新しくのびたノバラの枝にそっくり。ノバラの新芽には赤っぽいトゲがあるが、キエダシヤクの幼虫にも、うすみどり色のからだに、赤みをおびたトゲのようなものがある。あしも先っぽが赤黒くなっていて、小さなトゲのように見えるよ。



あ、うんちだ!

ノバラの新しい枝にそっくりなトゲをもつキエダシヤクの幼虫。

ハイロセダカモクメの幼虫

ハイロセダカモクメの幼虫は、秋にさくヨモギの花を食べる。幼虫のからだのもようは、まるでヨモギの花そのもののように見える。食べてなくなってしまった花の部分にとまっていれば、それは食べられていない花のように見えるから、びっくり!

からだのもようと花のちがいがわかるかな?



秋にはやわらかい葉っぱがないから、やわらかいヨモギの花は、ハイロセダカモクメの幼虫の大好物。

もっと知りたい・擬態

あるものにそっくりなすがたをしていることを「擬態」といいます。擬態には、できるだけ自立とうとしているものと、自立たないようにしようとしているものの2通りに分けられると考えられています。

擬態でよく知られているのは、まわりの植物などにすがたをにせる虫たちです。この本にもたくさん登場していますね。かれらは、身のまわりと

ほとんど区別がつかないようにして、身をまっています。

自立たないためのくふうも、さまざまです。26~27ページでしかかいている虫たちは、ハチそっくりのようを自立たせることで、相手を警戒させています。虫を食べる小鳥や小さな動物たちにとっては、ハチにさされたくない、というわけです。

は 葉っぱになりきる

チョウやガの幼虫の多くは、緑色をした円筒形。まるまると太っているのに、からだの色やとまり方で、なるべく自立たないようにしています。

スミナガシの幼虫

アワブキの葉が食べられて、しおれた葉の一部がぶらさがっている。これはスミナガシの若い幼虫が食べのこしたものの、自らの身をかくす場とするために葉を食べのこし、食べのこした葉っぱのすぐ近くに、エビぞりのかっこうで下向きにとまっているんだよ。



みぎがわの葉のかたまりに注目。自らの身をかくす場所にするために、葉っぱの一部を食べのこして、自分が葉の一部になるようにぶら下がっている。

エビぞりしているスミナガシの幼虫には、さなぎになる直前になると、頭部に異様な突起があらわれる。おどろかすと、ゆらりゆらりと左右にふるといふ不気味なうごきをするよ。



ここに
いるよ！

ナミアゲハの幼虫

アゲハの幼虫は、ふつう枝や葉っぱの上にせなかを上にしてとまっている。アゲハの幼虫は、おなかがわが、せなかがわより明るい色なんだね。光は上からくるから、色のうすい部分がかげになり、せなかとおなかがわが同じようなこさの色となる。すると、立体感がなくなり、たいらに見えて目立たなくなるというわけ。



まだ小さい
幼虫だよ！

・もっと知りたい・

アゲハの幼虫の作戦

アゲハのなかまは、小さい幼虫のときは、白い色と黒い色がまざった鳥のフンのようなもようをしています。大きくなると葉っぱの色ににせて、緑色にかわります。さなぎになると、太くごつごつした幹にいるときは幹の色(茶色)ににせるし、細くすべすべした枝には緑色ににせて葉っぱに見えるようになります。

虫には、チョウやカブトムシのように、幼虫からさなぎをへて成虫になる「完全変態」と、幼虫からさなぎにならないで、そのまま成虫になるセミやトンボやバッタのような「不完全変態」という二つのグループがあります。完全変態の虫は、幼虫(子ども)時代と成虫(親)のかたちや、くらし方がまったくちがうので、ケムシとチョウ、ポウフラとカのように、まるで、べつな生きものに見えます。だからこの二つは、もとは、べつな生きものだったのではないかという意見もあります。



5 忍法おどろかしその2



ハチに変身、 虫化けの術



黄色と黒のしまもようをもつハチは、
ハデな色で自分がきけんな虫だということを強調し、
天敵から身をまもります。このしまもようをにせて、
見た目をハチになりすます虫もたくさんいます。



ようろうばなし

はたらきバチは、 みんなメスバチ

アリやハチは女王が巣に1頭いて、あとははたらきアリ、はたらきバチです。それは全部メスで、巣にオスはいません。秋になるとオスと新しい女王が生まれて、巣からとびだします。新しい女王は冬を越し、春になると新しい巣をつくって、はたらきアリやはたらきバチを産んで、育てます。終わりのほうに生まれてくるとオスになります*。

* アリやハチは、女王だけが子どもを産む。女王は、メスとオスを産みわけることができる。オスはまったくはたらかず、子孫をのこすためだけに生まれる。繁殖期がはじまるまで、オスが生まれることはない。



ハチモドキハナアブ



オオスカシバ



マルモンクシヒゲガガンボ



フタガタハラブトハナアブ

ア

イ

ウ



クイズ
この3枚の写真のうち、1枚は、ほんもののモンズメバチ。あとのふたつは、ハチに化けている別の虫。ア、イ、ウのうち、どれがほんもの？

こたえ
アはトラカミキリ、イはヨコヅナガハナアブ、ウはモンズメバチにそっくり。

ハチになりすます!

ガヤカミキリムシなど、ハチに化ける虫は、すがただけでなく、とび方や、とんでいるときの音までハチににせることで、自分の身をまもります。

ハチの黒と黄色のしま模様は、道路工事の危険信号につかわれるようなよく目立つデザインだ。赤と黒のテントウムシも、とてもよく目立つ。よく目立つ虫を調べてみると、テントウムシのように食べるとにがい、つまり体内に毒をもっているものや、ハチのように毒針をもっているものなどが多いことがわかるよ。

小鳥などが、一度いたい目にあうと、そのことをおぼえていて、二度とその虫を口にしないといわれている。目立つことは、毒のある虫にとって小鳥にとっても都合のよいことなのだ。

オオスズメバチ



毒があるからキケン!

ヨコジマナガハナアブ

小型のスズメバチににている。飛んでいるときにあしをだらりと下げるなど、姿勢までにせている。とまっているときは、前あしを触角のように見せるという手のこんだテクニックもつかう。



ハチは触角が長く、アブは触角が短い。長い触角に見えるのは、のばした前あし。

●まだまだいるよ、ハチにた虫

ハチモドキハナアブ

トックリバチににている。ハチは腰が細いので、アブも腰を細くすればハチに見える。



マルモンクシヒゲガンボ

オスの触覚がグシヒゲ状ということで、その名がついたという。ふつうのガンボよりは、あしもじょうぶそうだ。



オオスカシバ

ハチのようにも見えるけれど、れっきとしたガ。ホウジャクのなかまで、ほとんどの種類がハチににている。多くのガとことなり、日中に活動。空中でホバリングしながら花から花へと蜜をもとめてとびまわっているよ。



フタガタハラブトハナアブ

とんでいるところや、とんでいるときの音がマルハナバチににている。



トラカミキリ

スズメバチにそっくりなカミキリムシ。毒をもつスズメバチににせることで、鳥などの天敵から身をまもる。とんでいるすがたもスズメバチにそっくりだけれど、こちらは毒をもっていない。



くわの木にいるトラカミキリ。

敵をあざむき、身をかくす

右の写真は、アリのようで、どこか変。よく見ると、カメムシの幼虫です。見た目もよくにしていますが、うごぎがアリをまねています。カメムシの幼虫は、アリにすがたをにせて身をまもるとされています。

アリグモというクモのなかまも、すがたもさることながら、うごぎがアリにほんとうによくにしています。8本のあしのうち、前あしをつねに空中でうごかして、アリの触角のうごぎをまねているのです。アリグモがアリににせる目的も、外敵から身をまもるためだといわれています。

そもそも小さくて弱そうなアリににせたところで、身をまもることができるなんて、と思う人がいるかもしれません。ところが、アリはハチと近い関係にあり、手強い虫として、さまざまな生きものた

ちのなかで、きらわれているのです。その理由はなぜか。それは、この本のシリーズの「さがしてみよう! 虫のかくれんぼ」の24ページを見てください。調べれば調べるほど、虫たちの世界がおもしろくなってきましたよ。

(海野和男)

ホソヘリカメムシ幼虫(写真上)。アリグモ(写真下)。

